説教20220109イザヤ42：1-9マタイ3：13-17「我々にふさわしいこと」

キリストよお越しください。弟子たちの中に立ち、復活の御姿を現されたように、私たちの内にもお臨み下さい。

去る１月6日はイエスキリストの顕現日で、この日にイエス様はこの地上の多くの人々にその姿を現されました。この日をもってイエス様を待ち望みそしてお迎えしたクリスマスのシーズンは終わるのですが、それでも私たちはイエス様を今ここで待ち望んでいることに変わりはありません。イエス様は、今、この地上を離れて天に居られますので、私たちは目には見えないイエス様と、顔と顔とを合わせてはっきりと再会する日を今日も待ち望んでいるのです。このイエス様を待望する心、それは信仰でもありますが、その心が弱まってくると私たちは、どうなってしまうでしょうか。私自らの体験から言いますと、その人は、イエス様を待望するのではなく、人の好意を待望したり、或いはこの世におけるが我が身にもたらされることを待望するようになります。そうすると、かえって心中がざわついてきて、満たされなくなって、この世で生きていくことがつらくなって来たり、或いは孤独感にさいなまれるようになります。ですから私たちは何時も、イエス様を待ち望むという信仰に立ち返って、この世の歩みにあって、救われていきたいと願います。

しかし、その何時になるかも知れないイエス様との再会をただ待ち望んでいるということも又、辛いといいますか、やるせないことではないでしょうか。箴言には「待ち続けるだけでは心が病む」という御言葉が載っています。「待ち続けるだけでは心が病む」。それは、イエス様を待望する信仰においても当てはまることだと思います。私たちの信仰はただ待ち続けていくことだけではありません。もちろん、イエス様を待ち続けていくことは重要ですが、それと同時に、私たちは聖霊に満たされ聖霊に導かれて、時に適った行いをすることを日々促されてもいるのです。聖霊による行いの促し、聖霊による指令はとても単純明快で具体的であります。あなたは、今、ここで、かくかくしかじかのことを行いなさいという指令が、各人にその都度、聞かされるのです。その様子は、パウロが使徒言行録の中で終始、聖霊の指令によって行動し続けた有様を観ればわかりやすいでしょう。例えば、使徒言行録19章２１節に次のように記されています。「このようなことがあった後、パウロは、マケドニア州とアカイア州を通りエルサレムに行こうと決心し、『わたしはそこへ行った後、ローマも見なくてはならない』と言った。」これはパウロが具体的に自らのローマへの道のりを構想した場面であります。皆さん、この文章のどこに聖霊があるの？と疑問に思われているでしょう。実は、決心するという言葉のもとのギリシャ語が、聖霊に身を委ねる、という意味なのです。今の世の常識からすれば、どこに行くべきか決心する時には、色々と調査をして、検証して頭でよく考えて、そして人に相談もして、ではどこそこに行くことに決めようという成り行きになると思いますが、キリスト者であるパウロの決心は、全然そういうことではなかったのです。ただ、聖霊なる神にわが身を委ね切って、あなたの示すところへ私はついていきますよ～という心境なのです。これはあれこれ思い悩まなくて済む、そして決して今でいううつ病におちいることのない、素晴らしい決心の仕方ではないでしょうか。

私たちは、私たちを永遠の命の国へと導いて下さる聖霊を、わが心の中に豊かに宿していければと願います。父子聖霊なる一つの神様を信じて、行っていくことこそ、私たちが主を待ち望んでいるのと同様に、大事なことであります。

では、そのように素晴らしい聖霊を、わが心のうちに豊かに宿していくにはどうすればよいのでしょう。その第一歩は、洗礼を受けることであります。使徒言行録にペトロによる洗礼の勧めが記されています。「悔い改めなさい。めいめい、イエス・キリストの名によって洗礼を受け、罪を赦していただきなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます。」このようにペトロは全員に洗礼を受けることを勧めました。自分の罪を悔い改め、イエスキリストの洗礼を受ければ、罪赦され、聖霊を受ける、ということはイエス様が天に昇られる前に私たちに約束をされたことです。

イエス様の、洗礼を受ければ聖霊を受けます、というこの約束は、まことに素晴らしく喜ばしいことですが、この約束の中身を知るには今日のマタイ福音書の箇所を読むのが良いでしょう。実は、洗礼を受ければ聖霊を受けるという約束は、人となられたイエス様ご自身が、全ての人に先んじて体験をなさったことであります。今日の説教題は「われわれにふさわしいこと」ですが、イエス様は人になられて、そうして私たち人間の群れの中に入られて、私たちを「われわれ」と呼んでくださったのでした。イエス様に養われているわれわれは、イエス様と同様に洗礼を受けて聖霊を受けることが出来るようにされたのです。

さて、我々にふさわしいこと、のこの我々は、大きく言えばこのように古今東西全ての人間をさしているのですが、小さく言えば、イエス様と洗礼者ヨハネの二人のことでしょう。この二人の意見はイエス様が洗礼を受けるべきか否かで大きく異なっていました。果たしてイエス様は、洗礼を受けるにふさわしい存在であったのかどうか、は根源的な問題でありました。それは、人間の間で、「あの人はまだ洗礼を受けるのにふさわしくない、」ですとか、「あの人は、みかえりを期待して洗礼を受けようとしているので、相応しくない、」と言ったレベルの問題ではないのです。そもそも、全ての人間は罪人でありますので、定められた時に洗礼を受けるのにふさわしい身の上なのです。しかし、イエス様はそうではありません。彼は全く罪がない人、無原罪のただ一人の人なのです。ですから、本来、イエス様は、洗礼を受ける必要がなく、洗礼を受けるに相応しくないただ一人の人なのです。しかし、イエス様は決心して自分の足で、ヨルダン川のヨハネのところへと近づいて行ったのでした。ここで私たちは、イエス様が自ら、罪人の群れである人間の中に入って行かれることを決心されたことに思いを致すことでしょう。

ヨハネは言います。「わたしこそ、あなたから洗礼を受けるべきなのに、あなたが、わたしのところへ来られたのですか。」イエス様は答えられます。「今は、止めないでほしい。正しいことをすべて行うのは、我々にふさわしいことです。」この問答はさらっと書いてあるようで、実はとても重いやり取りだったことでしょう。ヨハネにとっては、イエス様から洗礼を受けられると期待していたところに、反対に、イエス様に自分が洗礼を授けることになるとは夢にも思わなかったのではないでしょうか。このことはヨハネにとって全く驚きの展開だったのです。

去年の１２月５日の説教で、洗礼者ヨハネによる水の洗礼のことを取り上げて、洗礼とは何なのかについてお話しましたが、今日のイエス様の洗礼の箇所で、その洗礼の話は結ばれます。イエス様も我々人間の一人として洗礼を受けられました。それはイエス様の個人的な出来事であると同時に、歴史的な出来事でもありました。当時の人々は、自らの罪を告白して悔い改めて赦されたいという思いに満たされていました。こういった機運は現代とは全然違うと思いますけれども、ともかくそういった時代の機運に押されて、多くの人々が悔い改めの洗礼を求めて、ヨルダン川のヨハネのところへと押しかけていたのでした。

彼らはヘロデ大王の治世に最早期待できなくなり、それぞれの生活の場を離れ、別の救い、別の統治者を求めてヨルダン川までやって来たのかも知れません。そんな彼らの心中にあったのが、今日のイザヤ書４２章に記されているような、傷つき暗くされた自分たちに新たな息を与え、光を与えるような、僕としての王様だったのでしょう。このイザヤ書４２章からを読みますと、そこにはイエスキリストのことが預言されているのだと、私たちは知ることが出来ます。彼は最後には十字架に掛けられ、刺し貫かれ、苦しみ、打ち砕かれた故に、私たちに平和が与えられました。それが、イエス様の王としての姿でした。当時の人々はこの様な救いがもたらされることを、あらかじめ予感することが出来たのでしょう。イエス様は、この歴史的なチャンスを生かされたのです。イエス様は、自らが洗礼を受ける者の一人となり聖霊を受けたことによって、全ての人が洗礼を受けて聖霊を受けるという道を切り開かれたのです。

このようにして、人々を救いへと導く業は、一人主の僕であるイエス様だけの役割ではなくて、選ばれて洗礼を受けたすべて人々が分担して担っていくべきこととなったのです。私たちが自分の為にではなく、主の為に働くということは、こういうことです。洗礼を受けた私たちは、聖霊によって、正しいことを全て行うことが出来るように、導かれています。このことは実に喜ばしい恵みの出来事だと思います。聖霊の導き、聖霊による決心、私たちはこの目に見えない聖霊の神によって動かされているのです。その具体的でかつ最も重要なイエス様から与えられた役割分担が、マタイ福音書の最後に記されている、「だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」といういわゆる伝道命令であります。人々を洗礼へと招いていくこと、それは今、天に居られるイエス様が直接手を下せず、私たちに全てを委ねられていることであります。このイエス様から託された役割というのは実にやりがいのあることでしょう。

私たちは、聖霊という目に見えない神様に満たされ、決心する喜びに歩む者たちですが、時にその目には見えないということで、信仰が揺らいでしまうことがあります。そんな時に、誰かが新たに洗礼を受けるのを目にする、ということは、私たちにとって目に見える喜びとなり、私たちはその姿に大いに励まされるのではないでしょうか。イエス様が洗礼を受けられた時も、神の霊がハトのようにご自分の上に降ってくるのが見えたと記されています。私たちは、洗礼という目に見えるしるしによって、信仰の喜びをいや増されたいと願います。

祈ります

天に居られる

あなたは御子を待ち望む日々を私たちに与えて下さり、その上、私たちに聖霊を下して、私たちが思い、語り、行うことを導いてくださいます。どうか私たちが聖霊に満たされ聖霊に身を委ねて、日々の生活を歩んでいくことが出来ますように。

御子に聖霊がハトのように下ったように、私たちの上にもその御姿を豊かに現してください。

あなたの霊は、壁や隔てがあってもあらゆる場所に吹きわたっていく風の様であります。どうかあなたの息吹である聖霊が私たちを支配し、遠くにいる人、会えないでいる人と共に、あなただけを拝み、褒めたたえていくことが出来るようにしてください。

私たちの騒ぎ経つ心を鎮めて下さい。御子と出会った３人の学者たちが、別の道を通って、命を守られたことを思い起こし、私たちもその時々にあなたから用意された道を通って、御国への旅路が守られますように。その一歩一歩をあなたが豊かに祝福してください。

父と聖霊とともに一体